



# マジックかサイエンスか



アンブローズ・ピアスというひとが100年ほど前に著した「悪魔の辞典」というものがあるそうです。

その中には、「(歯医者)あなたの口の中に金属を入れたかと思うと、あなたのポケットの中から何枚かの硬貨をつまみ出す手品師。」という一節があるそうなの。

片手で口の中を見ながら、もう片手で患者さんのポケットからお金を抜いているような構図だそうです。

歯科医師は、サイエンティストではなくて、マジシャンというわけです。

私は、歯科医師ではありますが、日々行う診療がサイエンスとは信じられないことがよくあります。だから、アンブローズ・ピアスをはじめとする患者さんたちが、歯科医師に対して上記のような不信感を持つ気持ちがよくわかるのです。

ある時に、自分が患者だったら、前歯1歯欠損をどうするかを複数の歯科医師に聞いたことがあります。

前装鑄造冠のBrにすると答えたひとはいませんでした。

個人的には、Brは歯を失う原因にすらなっていると考えています。

設計や診断の問題ではなくBr自体が害になっているような。



私が学生のときの大学の歯内療法学の教授（当時）は

「一番いいのはなんにも”しない”療法だ」とよく言っていました。

歯科に対する患者の不信は、歯科医師がサイエンスではなくて、マジックで「もう片手で患者さんのポケットからお金を抜いているような」ことをしているからではないでしょうか。

歯科医療の目指すべきものは、自分の歯で噛めることだと思います。そのためには、根管治療や歯冠修復は、目的ではなく手段のはずなのに、保存学はそれ自体が目的になっていますし、無い歯を補って噛めるようにすることが目的のはずの補綴も「MT」が病名である現状では、義歯は手段ではなく、目的になってしまっています。

歯科医療が今とは違って、う蝕や歯周疾患で歯を失わないようにすることがほぼ100%近くできるようになるのなら、私も歯科医学がサイエンスであると信じられるかもしれませんけどね。

2012/06/25

みんなの歯科ネットワーク

sato

